

第 210 回 東京都中央区の吉田松陰像と坂本龍馬像及び千代田区の西郷隆盛像

筆者：林 久治（記載：2022 年 11 月 24 日）

（1）前書き

私（筆者の林）は [Random Walks（乱歩）](#) という題名で [偏屈老人（林久治）の気促な紀行文](#) のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は日本の銅像探偵団 ([1\) のサイト/](#)) の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン！」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「①見つけ難い場所に隠れている有名人の銅像。②市井で頑張って人生を過ごしたが、有名人ではない人物の銅像」という意味である。私は自宅が東京にあり、孫達が大阪にいますので、主として東京近郊と近畿地方で銅像探索を行っている。最近、私はネット記事を丹念に調査し、そのような「スクープ銅像」の候補を多数見つけている。

武漢肺炎による自粛生活で家に籠っていると、運動不足で体重が増加するし、精神的にも圧迫を感じる。私の銅像探索は不要不急の活動ではなく、私の生存に必要不可欠である。昨年の末には感染者数が激減し、「これで流行は終息か？」と期待していた。所が、本年になって第 6 波が到来してしまった。2 月 3 日には、日本全国の新規感染者数は、過去最高の 104,334 名に達した。しかし、これをピークとして新規感染者数は徐々に減少して、6 月 23 日には 16,670 名にまで減少した。

私は第 4 回目の予防接種を 7 月 8 日に受けることが出来た。そこで、私は 7 月 16 日からの連休後に大阪に行って、孫達と遊ぶことを計画した。しかし、6 月末から第 7 波が到来して、新規感染者数が急激に増加し始めたので、残念ながら私は大阪行きを中止した次第である。その間、新規感染者数は急激に増加し、8 月 3 日には過去最高の 249,789 名にまで達した。これは、当日の世界最高値であった。

東京地方の猛暑は例年以上で、7 月初旬から最高気温は連日 35℃以上であった。従って、第 7 波と猛暑のため、私は銅像探索をしばらく自粛していた。しかし、8 月 4 日から 6 日までは大変涼しくなったので、6 日には東京でも銅像探索を再開した。9 月初旬、私共は大阪に滞在し、近畿の銅像を探索した。東京に帰ってから、運動を兼ねて銅像探索を続けている。私の銅像探索記の全ては、[2\) のサイト/f](#) から閲覧出来ます。

私は 11 月 11 日に日本橋の「凧の博物館」にある茂出木心護像とその近くにある古河市兵衛像を探索し、[前回の記事/f](#) に記載した。11 月 19 日には、茅場町の吉田松陰像と、有楽町駅付近にある各県のアンテナショップで坂本龍馬像と西郷隆盛像を探索した。本稿はそれらの探索記である。なお、松陰像は [1\) のサイト/](#) には収録されているが、基本情報が記載されていない。龍馬像と隆盛像は [1\) のサイト/](#) には収録されていない。本稿では私の意見などを **青文字** で、資料の内容などを **緑文字** で記載する。

(2) 茅場町界限

茅場町駅の周辺地図を図1上に示す。私はこの界限に来たことがないので、松陰像以外にもこの付近を探索した。私は11月19日に地下鉄東西線の茅場町駅(図1の①)で下車し、松陰像のある箱崎公園(図1の③)に向った。その途中に、湊橋(図1の②)を渡った。



図1. 上：茅場町駅の周辺地図、本図は、[3\) のサイト/2](#)より借用。①：地下鉄東西線の茅場町駅、②：湊橋、③：箱崎公園、④：、⑤：。

下：湊橋に掲示されていた江戸時代の湊橋界限。

図1下に、湊橋に掲示されていた江戸時代の湊橋界限の図を示す。現在の橋は何の変哲もないが、江戸時代の橋は江戸でも有名な橋であったようだ。本図の傍には、湊橋の説明文も掲示されており、それには次のように書かれていた。

湊橋

この橋は、霊巖島（現在の新川地区で通称こんにやく島と呼ばれていた。）と対岸の箱崎地区の埋立地（隅田川の中洲）とを結ぶために、延宝7年（1679年）に架けられました。この地域は、江戸時代から水路交通の要所として栄え、とくに江戸と関西を結んで樽廻船によって酒樽が輸送されていました。「江戸名所図会」によるとこの橋は、当時の湊町を形成した日本橋川河口の繁栄を象徴しており、また橋をはさんだ川岸には倉庫が建ち並び、当時の賑わいが偲べれます。橋名の由来については、江戸湊の出入口にあったところから、湊橋と名付けられたものです。現在の橋は、関東大震災の復興期に再建されたもので、平成元年度の整備事業において、装いを新たにしました。

橋梁の諸元

形式：三連コンクリートアーチ橋、橋長：49.68m、有効幅員：18.0m（車道：11.0m、歩道：3.5m×2）、着工：昭和2年5月、竣工：昭和3年6月、施工者：東京市
平成2年3月 東京都中央区

（3）箱崎公園の吉田松陰像

湊橋から少し歩くと、箱崎公園（図1の③）に到着した。その写真を図2に示す。そこは何にも変哲もない小公園であったが、1基の銅像が設置されていた。その横に、案内板もあった。それらの写真を次ページの図3に示す。

本像の台座には、銘盤を設置したような窪みがあった。しかし銘盤はなく、窪みの石面に彫文があったが、判読不能であった。多分、戦時供出の際に、本像は存続許可となり、その代わりに金属銘盤が供出されたのであろう。だが、図2下の案内文には本像の設置経緯などが詳しく記載されていた。しかし、制作者の竹山蘭山の情報にはネット記事には無かった。多分、竹山氏は戦前活躍した彫刻家であろう。



図2. 箱崎公園



図2.

上左：吉田松陰座像、
上右：本像背面のサイン、
下：本像横の案内板。



吉田松陰像の由来

現在の水天宮ビツトの場所が、旧東京市箱崎尋常小学校として使われていた昭和十二年の末、当時六年生の児童であった岩井光子さんが病気で亡くなった。

光子さんは成績優秀なうえ、特に吉田松陰の生き方に深く感銘を受けており、亡くなる前に自分の貯金で、学校内に吉田松陰の銅像を立ててくれるよう両親に遺言を残した。

両親は生活が苦しい中でこの遺言を実現し、昭和十三年三月二十二日に除幕式が盛大に催された。当時この話は教育美談として東京日日新聞に表彰され、時の文部大臣や東京市の関係者など多数が参列した。吉田松陰像は竹山蘭山が製作するとともに、話に感銘を受けた当時の海軍大将高橋三吉が台座の「松陰先生」の文字を揮毫した。

昭和十九年四月、小学校は全児童が戦火を逃れるため疎開したのち廃校となったが、吉田松陰像は同じ場所である日本橋箱崎町の変遷を見守り続けてきた。

平成二十二年度に都立日本橋高校の移転と箱崎公園改修工事にあわせ、吉田松陰像をこれまで以上に町の方々に親しんでいただくため、この場所に移設することとなった。

平成二十三年三月

以上の資料などにより、本像の概要は次の通りである。（なお、括弧内は林の加筆である。）

吉田松陰座像

設置場所：東京都中央区日本橋箱崎町18 区立箱崎公園内

制作者：竹山蘭山

除幕式：1938年3月22日

設置経緯：本像横の案内板には、以下の通り書かれている。（括弧内は林が加筆）

吉田松陰像の由来

現在の水天宮ピットの場所が、旧東京市箱崎尋常小学校として使われていた昭和12年（1937）の末、当時6年生の児童であった岩井光子さんが病気で亡くなった。

光子さんは成績優秀なうえ、特に吉田松陰の生き方に深く感銘を受けており、亡くなる前に自分の貯金で、学校内に吉田松陰の銅像を立ててくれるよう両親に遺言を残した。

両親は生活が苦しい中でこの遺言を実現し、昭和13年（1938）3月22日に除幕式が盛大に催された。当時この話は教育美談として東京日日新聞に表彰され、時の文部大臣や東京市の関係者など多数が参列した。吉田松陰像は竹山蘭山が製作するとともに、話に感銘を受けた当時の海軍大将高橋三吉が台座の「松陰先生」の文字を揮毫した。

昭和19年（1944）4月、小学校は全児童が戦火を逃れるため疎開したのち廃校となったが、吉田松陰像は同じ場所で日本橋箱崎町の変遷を見守り続けてきた。

平成22年度に都立日本橋高校の移転と箱崎公園改修工事にあわせ、吉田松陰像をこれまで以上に町の方々に親しんでいただくため、この場所に移設することとなった。

平成23年（2011）3月

（4）高尾稲荷社と日本銀行創業の地

私は「江戸時代には、この一帯（箱崎公園付近）は海か隅田川では？」と思っていた。しかし、この一帯を歩いてみると文化財が多く残っており、むしろ隅田川河口の湊町として繁栄していた土地のようだ。箱崎公園の近くを歩いていると、小さいが大変派手な稲荷神社があった（図1上の④地点）。その写真を図3に示す。



図3．高尾稲荷社
（図1上の④地点）

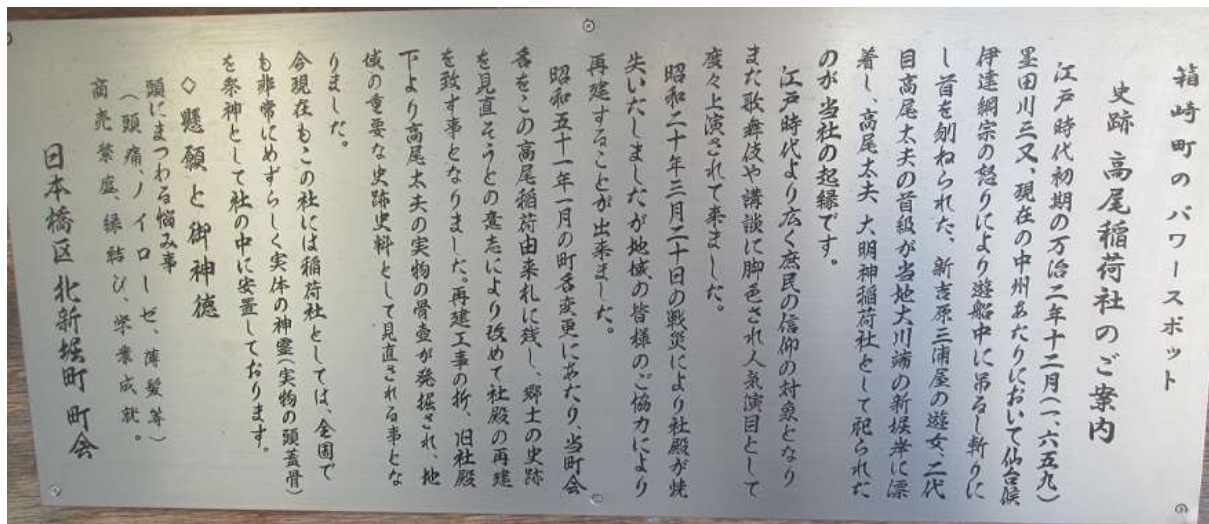


図4. 高尾稲荷社の案内板

高尾稲荷社の近傍に、当社の案内板があった。その写真を図4に示す。それには、次のように書かれていた。

箱崎町のパワースポット

史跡 高尾稲荷社のご案内

江戸時代初期の万治2年12月(1659)墨田川三又、現在の中州あたりにおいて仙台侯伊達綱宗の怒りにより遊船中に吊るし斬りにし首を刎ねられた、新吉原三浦屋の遊女二代目高尾太夫の首級が当地大川端の新堀岸に漂着し、高尾太夫大明神稲荷社として祀られたのが当社の起縁です。

江戸時代より広く庶民の信仰の対象となり、また歌舞伎や講談に脚色され人気演目として度々上演されて来ました。

昭和20年3月20日の戦災により社殿が焼失いたしましたが、地域の皆様のご協力により再建することができました。

昭和51年1月の町名変更にあたり、当町会名をこの高尾稲荷社由来札に残し、郷土の史跡を見直そうとの意思により改めて社殿の再建を致す事となりました。再建工事の折、旧社殿下より高尾太夫の実物の骨壺が発掘され、地域の貴重な史跡資料として見直される事となりました。

今現在もこの社には稲荷社としては、全国でも非常にめずらしく実体の神霊(実物の頭蓋骨)を祭神として社の中に安置しております。

◇懸願と御神徳

頭にまつわる悩み事(頭痛、ノイローゼ、薄髪等)、商売繁盛、縁結び、学業成就。

日本橋区北新堀町 町会

上記の「綱宗の怒り」とは、具体的には何であったのか? [4\) のサイト/1](#)に掲載されている「高尾稲荷社の由来」には、次のように書かれている。

万治二年十二月(1659)江戸の花街新吉原京町一丁目三浦屋四郎左衛門抱えの遊女で二代目高尾太夫、傾城という娼妓の最高位にあり、容姿端麗にて、艶名一世に鳴りひびき、和歌俳諧に長じ、書は抜群、諸芸に通じ、比類のない全盛をほこったといわれる。生国は野州塩原塩釜村百姓長助の娘で当時十九才であった。その高尾が仙台藩主伊達綱宗侯に寵愛され大金をつんで身請けされたが、彼女にはすでに意中の人あり、操を立てて侯に従わ

なかったため、ついに怒りを買って隅田川の三又（現在の中洲）あたりの楼船上にて吊り斬りにされ川中に捨てられた。

江戸時代の殿様は、何という残虐非道な行為を平気で行っていたのであろうか！殿様の目からは、遊女ごときは虫ケラ同然だったのだ！なお、当社の紹介は、[5\)のサイト/](#)が優れている。

高尾稲荷社の近くに、一見すると何だかよく分からない石碑があった（図1上の⑤地点）。その写真を図5に示す。文字が薄いので、近寄ってよく見ると「日本銀行創業の地」と書いてあった。



図5. 「日本銀行創業の地」の石碑

図5の石碑には、次のように書かれていた。

日本銀行創業の地

明治十五年十月十日 日本銀行はこの地で開業した
明治二十九年四月 日本橋本石町の現在地に移転した
創業百周年を記念してこの碑を建てる

昭和五十七年十月

日本銀行総裁 前川春雄

明治十五年は 1882 年

明治二十九年は 1896 年

昭和五十七年は 1982 年

なお、ウィキペディアによれば、前川氏は次のような人物であった。

前川 春雄（1911年2月6日 - 1989年9月22日）は東京都出身、1979年、第24代日本銀行総裁。1984年に総裁を退任後、折からの日米貿易摩擦への対応を取りまとめる任を負った。1985年、中曽根康弘内閣が設置した私的諮問機関である経済構造調整研究会の座長に就き、「内需拡大と市場開放」を謳った報告書（前川レポート）を取りまとめた。

私は、「結局、この前川路線により、日本政府が米国の要求を飲み、規制緩和・対外開放の動きをすることとなった」と非常に残念に思っている。

私は「本石碑の場所は、日本銀行創業の地としては少し辺鄙な所にあるなあ」との疑問を抱いた。そこで、ネット検索を行うと、[6\) のサイト/](#)に次のような記事を発見した。

明治初年の永代橋（えいたいばし）は、文化5年（1808年）に架橋された2代目の木橋で、現在の橋より100mほど上流に架橋されていました。その永代橋の西詰にあった北海道開拓使物産売捌所を日本銀行として使っていました。建物は、イギリス人建築家ジョサイア・コンドル（Josiah Conder）設計の洋館（レンガ造り、2階建て）で、明治13年完成。北海道開拓使物産売捌所は、道産の物産の販売促進などを目的に明治13年6月に設置された施設で、現在のIBM箱崎ビルの場所に建っていました。明治14年6月には北海道開拓使東京出張所が閉鎖され、物産売捌所も機能を停止。明治15年2月8日には北海道開拓使も廃使となっているので、まさに短命の施設だったのです。明治15年8月には日本銀行への貸渡しを決定し、10月10日、ここで業務を開始したのです。旧北海道開拓使物産売捌所の建物は、明治29年4月の本店移転後も日本銀行が使用しましたが、大正12年9月の関東大震災で全焼し、現存していません。

上記の記事より、私は「北海道開拓使の物産販売所は、永代橋西詰という当時としては日本経済の中心地にあったのだ」と、納得することが出来た。

（5）有楽町駅界隈のアンテナショップの坂本龍馬像と西郷隆盛像

有楽町駅界隈には多くの県のアンテナショップがある。その中で、銅像があるのは「まるごと高知」と「かごしま遊楽館」である。そこで、箱崎町での探索後、有楽町駅にまわった。同駅の周辺地図を図6に示す。

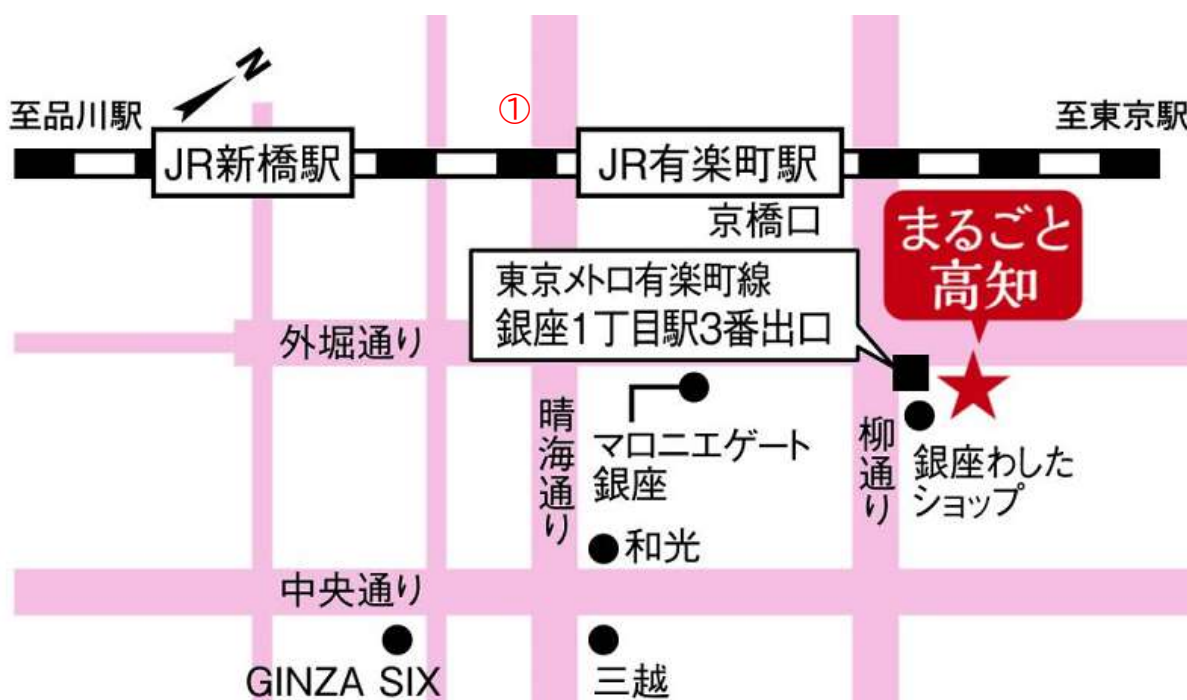


図6. 有楽町駅の周辺地図、本図は、[7\) のサイト/](#)より借用。

①：かごしま遊楽館。

私は先ず「まるごと高知」に行ってみた（場所は図6の★地点）。本所の1階入口に坂本龍馬立像が設置されていた。その写真を図7左に示す。本像は大変立派な銅像であったが、キャンペーンの幕が掛かっていた。また、制作者の氏名や設置日付も記載されていなかった。



図7. 左：「まるごと高知」の坂本龍馬像、右：「かごしま遊楽館」の西郷隆盛像。

「まるごと高知」の紹介は、[7\) のサイト/](#)や[8\) のサイト/6](#)に記載されている。以上の資料などにより、本像の概要は次の通りである。

坂本龍馬立像

設置場所：東京都中央区銀座 1-3-13 リープレックス銀座タワー まるごと高知 1階入口

制作者：不明、設置日：不明

設置経緯：まるごと高知は2010年8月21日に開業。「高知の『ヒト、モノ、コト』が首都圏の人々と出会い、ハーモニーを奏でる場」を基本テーマに、女性を中心とした首都圏の幅広い年齢層の方々にとっての「お気に入りの居場所」を目指します。また、高知の情

報発信拠点として、物産品の販売のみならず、文化、観光情報など、高知の魅力をまるごと発信してまいります。

次に、私は「かごしま遊楽館」に行った（図6の①地点）。本館の3階入口に西郷隆盛像があった。その写真を図7右に示す。本像はFRP像であった。私は「こんな粗悪な像は、むしろ展示しない方がよい」と思った。また、制作者の氏名や設置日付も記載されていなかった。私は本館で「明石家名産のカルカン饅頭」（5個で918円）を数十年ぶりに購入した。

本館の紹介は [9\) のサイト/1](#) や [10\) のサイト/](#) に記載されている。以上の資料などにより、本像の概要は次の通りである。

西郷隆盛立像

設置場所：東京都千代田区有楽町 1-6-4 千代田ビル かごしま遊楽館 3階

制作者：不明、設置日：不明

設置経緯：かごしま遊楽館は、首都圏における物産・観光情報の受・発信拠点及び「食」を始めとする鹿児島県の文化の発信の場として、1995年5月30日に開館。本像はFRP像である。

参考資料

- 1) のサイト：<https://douzou.guidebook.jp/>
- 2) のサイト：<http://masaniwa.web.fc2.com/Ranpo.pdf>
- 3) のサイト：<https://mapfan.com/spots/SC5AQ,F00F,Y2>
- 4) のサイト：<http://glassesmaiden.blog81.fc2.com/blog-entry-1975.html>
- 5) のサイト：<https://urbanlife.tokyo/post/28386/>
- 6) のサイト：<https://tokyo-trip.org/spot/visiting/tk0741/>
- 7) のサイト：<https://www.marugotokochi.com/>
- 8) のサイト：<http://fm840.jp/blog/hello/2022/11/21/32176>
- 9) のサイト：https://www.nga.gr.jp/pref_info/tembo/2013/05/post_2267.html
- 10) のサイト：<https://guidememo.jp/kagoshima-yurakukan/>